

## 管理栄養士・栄養士と共有しておきたい腎臓病の病態の捉え方

講師 東北大学大学院学系研究腎・高血圧内分泌分野 特命教授

宮崎真理子先生

糖尿病透析予防指導管理料が算定されるなど、腎臓病の療養指導にチームでかかわることが求められてきており、私たち管理栄養士・栄養士も腎臓病の病態を共通の知識を持つことが必要とされています。

今回の研修では東北大学大学院学系研究腎・高血圧内分泌分野 特命教授の宮崎真理子先生に基本的な腎臓の病態から腎不全患者の栄養管理までご講義を頂きました。



腎臓病の診断では腎臓の検査値からの区分を糸球体などの画像を示しながら詳しくご講義頂き専門性の高い内容でした。

腎臓病では病態別のステージでエネルギー、たんぱく質、食塩、カリウムなどの栄養素の指標がガイドラインで示されており、ステージ5Dでは血液透析、腹膜透析かで必要とされる栄養素の基準が異なります。また、透析をするようになるとたんぱく質を多くとるような基準となっています。

また、腎不全時、ステージ G5d では PEW（たんぱくとエネルギーの蓄積が減少して低栄養を引き起こしている現象）の因子が増え低栄養の状態に陥りやすく、またリンの過剰となり血管の石灰化が起きやすい状態でもあり栄養管理の難しさを感じました。



今回の研修会に医療部だけでなく他の職域の会員 60 名の方の参加を頂き関心の高さが伺えました。

現在宮城県には 5300 人ほど透析をされている方がいて（内 60 数名が腹膜透析）患者さまの高齢化も進んでいる現状。

今回得た知識をより多くの患者さまに還元していけたらと強く感じる研修会でした。

（文責 宮沢尚子）